

帯広東ロータリー・クラブ会報

[2022-2023年度]



イマジン
ロータリー

会長/古川 直也
幹事/上野 敏郎
会報編集 メディア委員長/加藤 肇



帯広東RC HP

■創立：1984年6月15日 ■認証：1984年6月18日 ■例会日：毎週火曜日 12:30～13:30
■事務局：〒080-0013 北海道帯広市西3条南9丁目23 帯広経済センタービル東館3F TEL(0155)25-7347 ■例会場所：ホテル日航ノースランド帯広 TEL(0155)24-1234

第1762回例会 (令和4年8月23日) 於 ホテル日航ノースランド帯広

起立 (SAA)
友情の握手 (SAA)
点鐘 (会長)
開会宣言 (帯広東RC第1762回例会)
加藤 武志 副SAA
国歌斉唱 (SAA)
ロータリーソング (奉仕の理想) (SAA)
ゲスト紹介 (会長)
とかち史談会顧問/元帯広市議会議長
領野 侑 様



会長挨拶 古川 直也 会長

- 古川 直也 会長 台風14号は温帯低気圧に変わりました。九州では気象庁始って以来かなりの大きさのことでした。
- 加藤 肇 会員 本日、メディア委員会担当例会です。久々に卓話をします。よろしくお願い致します。
- 曾根 一 会員 小さなアパートの中で水耕栽培を初めます。レタスをつくります。年間を通して収穫できますので楽しみです。とかちむらでも販売致しますので御利用下さい。
- 金尾 泰明 会員 藤田さんの入会とても嬉しく思います。これから楽しく一緒に活動しましょう。
- 池田 誠 会員 本日例会を担当させていただきます。よろしくお願い致します。
- 加藤 昭治 会員 誕生日に記念品を頂き有難うございました。
- 上野 敏郎 幹事 久しぶりの例会です。とにかく"気をつけながら"毎日楽しくいきましょう。
- 大塚 正昭 会員 先週の転場訪問例会、泉会員には大変お世話になりました。最後には豆や南瓜などをいただき有りがとうございました。
- 藤田 淳 会員 誕生日のお祝いありがとうございます。息子も先日、無事に4歳になりました。仕事に家庭にロータリーにガンバっていきます。
- 古川 直也 会長 誕生日に記念品を頂き有難うございました。

会務報告

上野 敏郎 幹事

- ①帯広北RC、8月26日(金)の例会は、休会と致します。
 - ②帯広南RC、家族野遊会開催のご案内
日時 8月28日(日)午前10時
場所 焼肉ガーデンまくべつ
※尚、8月29日(月)の繰上げ例会と致します。
 - ③帯広東RC、8月30日(火)の例会は休会と致します。
 - ④RI第2500地区大会(旭川)開催のご案内
日程 10月8日(土)～10月9日(日)
場所 旭川市民文化会館 他 ※詳細は別紙参照
- 《大会1日目(8日(土))》 記念親睦ゴルフ大会(土) 8:00～
大雪山カントリークラブ
会員研修セミナー
(3年未満・女性会員)13:00～
アートホテル旭川
- 《大会2日目(9日(日))》 登録受付 9:00～
旭川市民文化会館
本会議(午前の部) 10:00～12:00
" "
本会議(午後の部) 13:00～16:20
" "
大会記念大懇親会 17:30～19:00
アートホテル旭川他
- ※登録料：14,000円、記念親睦ゴルフ：5,000円、会員研修セミナー：3,000円
- ⑤例会終了後、定例理事会を開催致します。



プログラム

会員増強・ロータリー情報委員長
池田 誠 会員



【帯広『開拓140年』にやるべきこと】

とかち史談会顧問/元帯広市議会議長 領野 侑 様

本日の例会にお招きを頂いたこと、大変嬉しく感謝をしております。あたかも本年は帯広開拓140年、市政施行90年という歴史的節目を迎えました。藤丸デパートが西2条8丁目に開業したのは昭和5年です。市政施行の要件人口3万人にまだ達していなかった。何とてでも3万人ということで色々なことをやりました。誘致もした。あと2つ都市として必要なものはデパート、もう一つは高等教育機関、いわゆる大学等でした。デパートは東北道にはなかったが、藤丸デパートが市政施行に弾みをつけ、市を象徴するものになりました。市政施行90年に閉店が決まったことは言葉に出来ないくらいの感慨を覚えるものであります。中心商店街、地盤沈下、歩行者も減って久しい年月も経っています。すっかり様変わりしてしまいました。今なすべきことは、何と言っても開拓の祖である依田勉三、キネマ館のバンドマスターから上京し花開いた音楽家、万城目正、そして帯広が今、帯広の文化を象徴するような今は亡き歌人、中城ふみ子、それらの遺跡を開拓140年にしてどういう風にして街づくりに地域おこしに活かして行くのか。



依田勉三が74歳の生涯を閉じたのは西2条10丁目4番地、丁度かじのビルの北側の方。依田勉三の自宅が大正年代からそこにありました。

勉三は大正14年12月12日、息を引き取る時、晩成社には一

委員会報告

各委員会(SAA)

・ニコニコ献金
親睦活動委員会 高氏 英年 会員



坪の土地もない一銭の金もない、晩成社は解散する、しかし十勝野は目まぐるしく発展しておりました。と言って息絶えたということ、ドラマにすると非常にこう相応しい言葉になりますが、史実は死に際に語った言葉ではなかった。大正の13年から15年にかけて依田勉三の遠縁にあたる三原武彦という青年、南米に行こうと思いましたが遠縁の依田勉三が十勝で開拓に苦勞をしているのを聞き、その手足となって自らの生き方の活路を見出したいということで勉三を訪ねてきた。その時に依田勉三はせっかく自分を頼りにして申し訳ないが晩成社には一坪の土地もないし、一銭の金もないし解散すると、しかし十勝にはこのように伸びているということ、これを言ったようです。

依田勉三の銅像は戦前中島公園で中島武一さんが私財を投じて建立されました。戦争中に焼失されましたが戦後復興して今日に至っております。銅像はありますが終焉の地にここで十勝開拓の祖勉三は74歳の波瀾の生涯を閉じたのは、ここがそうなのだと案内文や説明文があった方が良いのではないかと、それを最初に言い出したのは上野敏郎先生であります。私も大いに賛意を表しました。もともと土地の所有者はいまさら、敷地もありませんから敷地内は無理であります。しかしその舗道はですね、木なんかを植栽する部分もありますからそういう所にこの建物は依田勉三の自宅のあったところ、依田勉三はこの地で果てたということを書けば、市民はそのようなことを殆ど知りませんが再び認識が高まる、郷土愛も高まる、そういうことを勉強しに来る子どもたちも増えるでしょう。人も増えてくる、中心街にも集まる、賑わいも戻る。それによって賑わう一助になっていくのではないかと、これを開拓140年、市政施行90年に是非実現してはどうか。何十万も掛かる話ではない、何百万も掛かる話でもない、問題はわずかなお金で出来る話であって行政がやれば一番良い。なかなか行政と言うのは立ち上がらない。オベリベリに最初に足を踏み入れた倭人は八王子同心の皆川周太夫という人であった。その人の皆川周太夫上陸地点が水光園の北側にあった、あまりにも老朽化して朽ち果てていたので早く私は建て替えた方が良くと訴え続けました。これは意外に早かった、3年目に市は標柱を変えるばかりではなくして一帯に小川が流れていたのを河川を整備し、しゃれた橋をかけて皆川周太夫上陸の地と小公園が出来上がったのですけど意外に市民は知らないですね。

次は万城目正。明治38年幕別の相川で生を受けました。父、民治、相川小学校の校長、母ふじは相川小学校の音楽の先生。明治38年ピアノも満足にない時代、母ふじはバイオリンを弾くバイオリンの名手であった、その音楽的血筋を引いたのが子どもの万城目正とされているのであります。音楽専門学校に進みましたが中退してやってきたのが西2条9丁目映画館キネマ館でありました。無声映画時代、セリフは活動弁士。語り口というのは講談に近いものでしょうが講談よりもっともっと難しくなっています。ナレーションが必要だ、その臨場感を高めるためにバンドがあった。そのバンドマスターに採用されてやってきたのが昭和の始め、万城目正であったのであります。

万城目はキネマ館でライブですよ、歌劇の贅沢なイベントだと思いますね、庶民の哀歎を生まれ故郷の中心土地帯で庶民の哀歎を感じたと再び上京して映画会社松竹に入った。運よく松竹が制作した映画、川口松太郎原作、上原謙、田中絹代主演の愛染かつらという空前のヒットをした映画でありました。メロドラマであり全国の特若い人たちが紅涙をしておった。あたかも日中戦争が始まった、戦争はどのようなか、そういう不安もあった。しかし戦勝機運もあった、一抹の不安があったところにそういうドラマがあったので皆飛びつきました。その主題曲を作曲したのが万城目正でありました。主題曲は旅の夜風、花も嵐も踏み越えて行くが男の生きる道、殆どの人が口ずさんだ歌謡曲でありました。万城目はこのヒット曲で作曲家として世に出た、戦後リンゴの唄を作曲、作詞はサトウハチロー、歌は並木路子。リンゴの唄、廃墟と化した日本に再建の希望のメロディーとなったリンゴの唄、赤いリンゴに唇よせて黙ってみている青い空、今万城目の出生地幕別の100年記念館の前にこの歌碑が建てられました。まだ建てられてから3、4年しか経っていません。出生地は幕別であります。キネマ館でバンドマスターをしていた万城目正、天才少女美空ひばりが世に出た時にヒットした曲を作曲したのは殆ど万城目正である。港の見える丘、悲しき口笛、越後獅子の唄、東京キッド、戦後の若者が皆口ずさんだ歌謡曲であります。鳥倉千代子のこの世の花、大女優高峰三枝子が歌った懐かしのブルース、いずれも万城目正の作曲であります。出身地の歌がないなという人がよくいるんですけど結構あるんですよ。池田に在住していた作詞家小原四郎が作詞

して万城目が作曲した十勝を歌った歌謡曲もあります。この万城目の歌詞を西2条のどこかにつくって賑わいが戻る、詩の前で皆で口ずさんでも良い、観光客も一緒に歌っても良い、本当の地域の歴史文化というそういったものが見直されていくという万城目の詩も目玉だだと思います。これも行政がやるのが一番良い。キネマ館の跡地もなかなか駐車場になっておりますけれども歌碑も地権者の問題で難しものがあったとするならば、11丁目の北広場は私有地ですよ、あそこにつくっても良いと思う。そういうことから手をつけていくことによって、都市は蘇ってくる、そういう感じがしてならないのであります。

そしてもう一人。中城ふみ子。大正11年生まれ。妹の野江敦子さんは昭和8年生まれ、だいぶ歳が離れていました。野江商店は電信通り東1条6丁目、食料品店でありました。あの井上勉商店の酒屋さん井上力さん。商工会議所の副会頭をやりました。井上勉さんも大樹の坂下出身であります。野江商店の丁稚奉公をして、そこから身を起して独立して開業したのは井上勉商店であったのであります。野江商店というのはそれだけ老舗でありました。そして戦後広小路で呉服店を始めました。始めたのはふみ子の妹の敦子さん夫妻、敦子さんのご主人は寿一さんと言っていた。中城ふみ子短歌に目覚めたのは帯広高等女学校を卒業し東京の家政専門学校で国文学者の池田亀鑑という大家に指導を受けて短歌に目覚めたと言われております。帯広に帰ってきて色々な短歌会、歌会に顔を出して頭角を現した、結婚して中城となり三男一女をもうけました。しかしながら不幸にして夫と亀裂が生じ離婚をした。そこに襲ったのは乳がんである。その過酷な身体の中で自己表現の一番大きな生きる糧として歌を歌い続けた。最も権威ある短歌研究で特選、大作家川端康成の推薦を受けて歌集を出している。マスコミにも取り上げられる歌集の歌手になりました。性愛などを大胆に歌い上げる歌人でありました。34歳の時に最後の歌集、乳房喪失を手にながら世を去ったのであります。ふみ子の碑は護国神社の境内にあります。冬の皴よせぬる海よ今少し生きて己れの無惨を見むか。冬の潮、よせぬる海よ、その海が小樽から札幌医大病院に通院していた時の眺めた小樽の張碓の海であると言われておりますがそれを知る人は少ない。亡き後直ちに映画化されました。乳房喪失は。監督は女優から転身した田中絹代、主演は月丘夢路でありました。この中城ふみ子も今年開拓140年、市政施行90年を機に何か活かさなければならぬ。

他にも幸通では母親がカフェや旅館をやっていた。そして作曲家になったあの長崎は今日も雨だったの作曲者彩木雅夫。帯広生まれ柏葉高校卒、HBCの技術職員、中央に行かないで北海道にて全国的な作曲家となった稀有な人物。母親は親不孝通りと呼んでいた幸通で商売をしながら育てました。彩木雅夫の碑があっても良い。そして西3条の9丁目にはかつての帯広商工会議所会頭、帯広市議会議員の中島武市さんの邸宅があった。そこに高校卒業まで住んでいたのがシンガーソングライター全国的、日本の第一人者と言っても良い中島みゆきなのであります。何故か帯広を遠ざかっている。帯広出身と言いたがらない。それがありませんが中島みゆきも活かせる方法があります。どうかそういう声を行政に反映し、また皆様のお力をお借りして何か今年帯広らしい、そして未来につながる第一歩になるような一助になる一つのヒントとしてこの話を皆様方へお願いし、お話し申し上げる機会を頂いた次第であります。



講話の後、嶺野様にお礼を贈呈いたしました。



閉会宣言

(SAA)

点 鐘

(会 長)

次回プログラム予定

令和4年9月6日(火)

「十勝ロータリー奨学会について」(十勝0-列-奨学会委員会) 公益財団法人十勝0-列-奨学会専務理事 荒木 樹 様